大正五年九月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百二十二號

婦人衛生雜誌

第三百二十二號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

抄録

雜報

十月例會通知

來る十月七日(第一土曜日)午後一時半より神田區一つ橋通り共立女子職業學校内に於て本會例會を開き特に傳染病研究所の芳我博士に左の講話を御依賴致すことゝ相成候に付き此際可成御知友御誘ひ合はせ御來會被下度希望候也

尙當日は總裁宮妃殿下にも御臨場あらせらるべきやに承る

コレラ病に就て　　醫學博士　芳我石雄君

大正五年九月

私立大日本婦人衛生會

講習會開始

本院ニ於テ左項ニ據リ講習會ヲ開ク入會希望者ハ十月十日迄ニ申込マルヘシ

一、講習會期　十月二十一日ヨリ十一月十日マデ
　毎日午後六時乃至九時

一、科目及講師

(1) 傳染病ノ診斷及治療上注意スヘキ事項　醫學博士　宮本叔
(2) ワイル氏病及鼠咬症　醫學博士　二木謙三
(3)「オプソニン」ノ理論「ワクチン」療法及其技術　坂上弘藏
(4)「ルイチン」診斷法　赤津誠内
(5) 結核ノ診斷法　佐々木秀一
(6) 結核ノ「ツベルクリン」療法及化學的療法　石原巽
(7) 健康人及患者ノ榮養法　醫學博士　佐伯矩
(8) 脚氣ノ原因論及治療法　醫學博士　遠山椿吉

三、入會者資格　醫師

四、講習費　金七圓、但顯微鏡學會及鏡友會員ニ限リ五圓トス

大正五年八月

東京市神田區小川町一

東京顯微鏡院

電話本局一三五二

講演

長壽法

文學博士
醫學博士　富士川游

本篇は富士川博士が本郷區衛生會の講演會に於て御話になつたもので、同會の會報に掲載されたのでありますが、非常に有益な又誠に興味の豊かな御話でありますから、そのまゝ玆に轉載して本會會員諸姉の覧に供する事と致しました。（編者）

私の演題は長壽法と申すのであります、大分小さい御方もおゐでになりますからおわかりにならぬかも知れませぬが長生きの事の御話を致して見やうと思ひます、全體生れた者は死ぬるのが規則で我々人間は生れたその日から日一日と死ぬる期に近づくのであります、たとひ百年の壽命があるとしてもその壽命は生れたその日から段々と減つて往くのでありますからして、本統に長生きをしやうと思へば佛になるより外はないのであります、人間であれば、どうしても生れた日から一日々々死んで往かなければならぬ、所が我々人間の慾望として、どうか長生きがしたい、一日でも長生きがしたいそれがために長壽の方法はしば〳〵説かれ、又長生の藥なども現はれたことがないでもありません、それなら今日迄長命の人が居つた内でどの位迄生きて居つた者が一番長壽であつたかと調べて見ますると、我日本のことは當にならぬ、三百年も生きたと云ふ人がありますけれども本當にはわからぬ、西洋にはよくわかつたものがありますから、今晩はそれを申します、英吉利にジェンキンスと云ふ人が居つた、此人は一千六

百七十年百六十九歳で死んだ、あるとき百四十年前の事件の證人として裁判所に出頭したとき、百二歳と百歳との兄弟の子息を伴ふた、その職業は漁夫であつた、その次はトーマス、パーレで百五十二歳で死んだ、此人は百二十歳の時に三度目の結婚をなし、百三十歳まで劇しい力業をして居つた、餘り珍しいので英吉利の王様が之を田舎から呼寄せて倫敦に連れて來て御馳走をせられた、死んでから解剖して見た所が身體に老人性の變化がない、老人性の變化と云ふのは血管が石灰のやうに固くなるのであるが、この人にはそれが無かつた、全く老人性の變化が無くて死んだ、其死んだのを解剖した人は名高いハーヴェイ氏でありますから嘘でない、ハーヴェーの説に此老人を田舎に置いたならばまだ生きて居つただらう、倫敦に連れて來て御馳走を食はしたから百五十二歳で死んだのだと云ふ、それから獨逸にオブストと云ふ女が居つた、此人は百五十五歳で死んだ、所が此人は毎日「ブランデー」と云ふ我邦の燒酎のやうな強い酒を二杯宛飲むだ、「ブランデー」を二杯飲めば大酒家で、それで百五十五歳迄生きた、もう一つはヤコップ、ドナルドと云ふので、是は百二十歳で死んだが、此人は身長が七尺馬鹿に身長の高い人でありました、英吉利の蘇格蘭にワットソンと云ふ人が居つた、此人は百十五歳で死んだがその身長は二尺七寸の一寸法師でありました、獨逸にボルチュマンと云ふ外科の醫師が居つたが、此人は百四十歳で死んだ、此人は醫師でありながら不養生で、毎晩醉ひ潰れて居つた、それから佛蘭西にドリウと云ふ人が居つて百十四歳で死んだ此人は大變に咖啡が好きで、牛乳を入れない黑い咖啡を日に四十杯飲んだ其他にもかういふ例は澤山ある、斯う云ふ實例によつて見ますと、一寸法師でも長生きをする、ノッポでも、脊ツポチでも、大酒を飲んでも、咖啡を四十杯も飲んでも大丈夫、論より證據それで長生した人があります、さうすると醫師の衛生論も役に立たぬ不養生では長生は出來ぬと說いても實際毎晩醉

ひ謂れても長生きをした人がある、菓子を食つてはいかぬと云つても咖啡を四十杯も飲むで長生きをした人がある是は聴く方が能く聴かなければならぬ、醫師の言ふのは衛生の普通の規則を云つて居るのでその論説は一人々々に當嵌めて能く聴かないと聴き違ひを生ずるのであります、銘々の身體が長生きをするやうに出來て居れば、たとひ其人は不養生をしても外から見て彼の人はあれでは長生きが出來ないだらうと思はれるやうでも、長生きが出來ると云ふことが分る、其人が酒を飲んだ爲に長生きをしたのでない、咖啡を澤山飲んだ爲に長生きをしたのでない、長生きをする身體を有つて居れば其人が不養生をしても、長生きが出來るといふことを示すのであります、若し此人が酒を飲まず、咖啡を飲まなかつたならば、もつと長生きが出來ると云ふことを考へなければならぬ、それならばどう云ふ身體の人が長生きをするかと云ふことを知るのが長壽法の要訣であります、漠然と、養生をすれば長生をするといふやうなことを聴ても實際の役に立たぬ、酒を飲まぬで旨い物を食つて、養生に注意するときは長生きをするといふやうなことを聴いてもそれは實際に取りて何にもならぬ、本統に長生きをするには其身體がどう云ふ身體でなければならぬかと云ふことを知らなければならぬ、今晩はそれを少し御話して見たいのでありますが、大分長く御話もありましたし、私は四十分でお話を止める約束でありますから、極く大體の事を御話する積りであります、しかし大體御分りになるやうに能く申して見たいのであります。

人間が生きて居る年限、定命はどの位か分りませぬが、是迄の人が普通に生きた年は最高八十から九十位でありますから、先づ其位を生命の限りとして調べて見ると云ふと、人種に依つても相違がある。親が長命をして居れば子供も長命をする傾がある、土地に依つても違ひ、男と女に依つて違ふ、又生活の方法に依つても違ふ、金持と貧乏人でも違ふ、或は働き工合でも違ふ、氣候の寒い暑いでも違ふ、斯

樣に色々の違ひがある、けれども其中で、今此處で御話をすれば、この東京の人がどうして長生きをするものかと云ふことに限てお話するのでありますから外のことは餘り御話しなくても宜い、第一は年齢であります、今も我國の人の壽命が漸次減ると云ふ御話があつた、成程調べて見ると云ふと減つて居るやうな傾向も見えますが、各年齢に就ていふと、年を經る毎に壽命を増すと云ふことは確で、例へば生れた時に此先き四十年生きるものならば二年には四十二年生きると云ふ風に年を一つ越せば長生きはそれに從つてするやうになつて居る、是は爭ふべからざることでありますから、どうしても、斯うしても少しの病氣があれば醫師に見て貰つて治すとか何とかして、どうにか斯うにか年を越せば長生きをする一年生き延びれば一年壽命を増す、でありますから成る丈け氣を付けて一年々々年を取つて往くと云ふことが大變必要であります、それから年に依つて病氣に罹る工合の違ふことも、氣を付けなければならぬ、是は細かいことになりますから御話は致しませぬが、年に依つて大變病の種類が違ふのでありますからそれに注意しなければなりませぬ、其次は女と男と大變身體に差がある、女は大體に長命をする、八十から以上の人を調べると女の方が大變多い、それは女の身體が病氣に對して強いとか病氣に罹り惡いと云ふ譯でない、女の身體が病氣に罹り惡いのならば大變宜しいのでありますけれども、さうでなしに女の身體が病氣に罹るやうな場合が少ない、家庭の内に居つて靜にして御飯を食べて好い加減に働いて居る、夜間雨風の劇しい時に出るでなし、又日の中に劇しく勞働するでなし、大變身體のために都合が好く出來て居る、此女の身體を男のやうに外に引張り出して勞働させますと女の方が餘計死ぬ、例へば女を電話交換局の技手に使ふとか、或は他の勞働に使つて男と同じくすれば直ぐ病氣に罹る、さうして長く病氣になる、是は確かな事實で、今日迄のやうに婦人が婦人の職を守つて居れば是迄の通り長命

が出來ませうけれども、婦人の新しい人が澤山出來て男と同じく勞働したら婦人の壽命の減ることは確かであります、それから飮食である、或は家屋である、まだその外に色々、身體を強くし或は弱くする原因はありますけれども、先づそれは拔きにして、長命をする身體を拵へるのには、兩親が常に自分の身體を丈夫にして、さうして其間に出來る子供の體質をよくするやうにしなければならぬ。既に生れた人の身體に對して長生きする工風をすると云ふことは隨分骨が折れる、どうか子供の出來ない前に兩親の身體を充分健康にして餘り酒を飮まず、惡い病氣に罹らないやうに、色々なことに注意して立派な子供を作ると云ふことが第一に必要であります、さう云ふ風に身體の方面に色々の條件があつて長命が出來るのでありますが、其事を一々精しく御話すると時間が掛りますから、只今はその内にて、最も必要な精神の方面のことを御話を致します。

さう云ふ風に親から立派な身體を貰つて、さうして其立派な身體を守つて往くのに年齡に依つて注意する、男と女で注意をする、病氣に依つて注意をする飮食に注意する、住居運動に注意する、その他色々身體の方面に注意する、其外に最も必要なのは精神の方面に注意しなくては長命が出來ないのであります、精神の方面に注意をしなくてはならぬと云ふ其第一は精神を使ふと云ふことを規則正しくして、休めないといふことであります。是迄長生きをした人は、どんな人でも、金持でも貧乏人でも、學者でも無學者でも、長命をした人の經歷を調べて見ると腦の使ひ方が規則正しい、金持で以て早く隱居などをして子供に世を讓つてブラ〳〵して居る人に長命な人はない、腦の働を規則正しくして休めない、働く時にはそれを規則正しく使ふ、それならば餘り腦を使ふと腦が減つてそれで以て身體が弱るであらうと云ふ考がありませうけれども、腦と云ふものは非常に烈しく使はない限りは使へば益ゝ其働が良くなるものでありまして、是迄年を取れば腦の力は

減るなどと云ふ説がありましたけれども、決してさう云ふことはない、老人の腦も使へば何時迄も使つて其働をするものであります、人間を腹を減して試驗をすることは出來ませぬから、動物を犬か兎などを以て試驗をして見る、犬や兎などに腹を減らして物を與へないで置きますと脂肪と云ふものが一番先に無くなる、筋肉が無くなり其他色々のものが無くなつて一番後に其分量の減るのは腦であります、腦は最後に減る、それでありますからして疲れた時に一番先に無くなるのは脂肪筋肉の力で、ずつと後迄腦が殘るから腦は激度に使はぬ限りは使へば益々其働は良くなるものであります、故に幾ら年を取つても頭は使へば益々其働が出來るのであります、其使ひ方が惡いとか、或は休まし過ぎるとか云ふことが老耄をすると云ふ年寄の頭の働が出て來るのでありますけれども、適當にやれば必ず腦の働と云ふものは年を取つても益々盛になる、さうしてそれが長命をします一の秘訣であります、仕事を終身止めない、何處迄もやるのであります。其次は腦の力を一の物に傾ける、通俗の言葉で申すと物事に興味を持つやうにする、物事を喜んでするやうにする、厭やでしない今腦を使ふと申しましたが、其腦を使ふのが厭やではいかぬ、人から頼まれたからする、或は厭やだけれども、すると云ふことでは疲勞をすることが甚しい、物事に興味を持つやうにして腦の力を使ふ、自分から進んで物事をする、是が第二の長壽の秘訣であります、其次は腦を緊張さすと云ふ、緊張と云ふことは少し六ケ敷い言葉でありますが、精神の働を休めない、休めないと云ふのは續けてすること、腦に閑を置くのは宜くない、起きて働いて居る間は一心不亂に物をする、それが精神の緊張であります、此精神を緊張すると云ふことが我國の習慣は是迄非常に間違つて居る、仕事をして居るやうだけれども側で見ると遊んで居るやうで、即ち精神が始終緊張して居らぬやうであります、御役所などに往くと午前九時出頭午後四時退出

と書いてあつてチャンと机に向つて居るが、煙草を喫んで考へて居るやうにも見え、何もして居らぬやうにも見える、九時出頭四時退出は確にやるが、其間仕事をして居るのかして居ないのか分らぬ、日曜と云ふものはチャンと休むやうに出來て居るけれども其日も全くは休まない、それだから仕事をしたやうだし、しないやうだし、何方か分らぬ、精神の緊張と云ふものが萬遍なく出來て居らぬ、遊ぶ時には思切つて遊ぶ、働く時には思切つて働くやうな西洋人の習慣ならば極く宜しいが學問でも仕事でも勞働でも何でもさうで、時間も隨分長くやつて居るから仕事をする筈だが、其中で話をして愚圖々々して閑を潰す、ヘーゲと云ふ西洋の先生が言つて居る言葉に人間が働き過ぎて害を受けることは遊び過ぎて害を受けるより少ないから、思切つて使ひ過ぎて宜いと云ふのは是なんで、勉強して害を受けると云ふ人はそんなにない、其次の長生の祕訣は感情をチャンと極めることで、それが長生きをする祕訣であります、元來感情といふものは固定しないのでありますから、その感情を固定さすと云ふことは六ケ敷ことでありますが、これが固定しないで動搖することが甚しいと、それが爲に身體に害をすることが甚しいのであります。さうして此の氣分を固めろと云ふことが大層六ケ敷いことでありまして、小學校でも中學校でも大學校でも學問は、ドシ／＼教へて貰はれますけれども、心の感情を固めて往くと云ふことに付ては餘り教はつて居ない、今日の所では銘々自分共で、それをやつて往かなければならぬのでありますから、一層六ケ敷い、其感情が固つて居ないと云ふと總ての生活に關係した事柄に何時でも間違が出來て來る、一寸例を擧げて申しますと病氣の場合に著しく現はれる、病氣の場合に感情が固つて居ないと一番先に出るのは自分の罹つて居るのは一體何の病氣であらうか、此醫師に見て貰つたら何と診斷した、それではどうも自分は不安心だからもう二三日見て貰つたが少しも容態が變らぬ、藥を飲ん

でも利かないやうだから次の醫師に往く、次の醫師は何と診斷したが、其醫師も充分信用が出來ない、又次の醫師に往くと云ふ、是はチャンと心が極つて居ない證據であります、其心の極らぬのは何故極らぬかと云へば感情と云ふものがある、どなたでもある感情、一寸物を感ずる、快いとか不快なとか、氣持が善いとか惡いとか云ふ感情、其感情は物事に依つて上つたり下つたりする、智惠と云ふものは比較的固定的のもので、智惠は物を知るのでありますから、たとへば此「コップ」は硝子で拵へて水を入れるものだと云ふことを知れば、その智惠に固定して居る、感情と云ふものはそれに反して、今大分善い心持だと云ふ感情が起きても、誰かに是は和製の硝子でそんなものは仕方のないものだと云はれると厭やになる、此の如く感情と云ふものは始終上つたり下つたりするものである、それが當り前でありますからそれをチャンと一所に固定させて往くことは骨が折れるでありますから、今のやうな場合でも感情が極つて居つて自分が病氣に罹る、さうすると病氣の性質が自分に大體分つて自分の心で以て大體それが極れば、それに付て色々の迷ひを起すと云ふことは少ない筈であります、多少の迷ひは起すと云ふことは少ない筈であります、多少の迷ひは起きませうがそれは少ない筈であります、然るにそれが心が固定して居ないと診斷を疑ふ、又藥の利き目を疑ふ、神に祈り佛に縋つて見る、色々なことをして間く、其間く結果は病氣を惡くする、病氣の經過と醫師の方で申しますがそれを必ず惡くする、それが病氣に罹つて居りながら自分の心がチャンと極つて一の醫師を信賴して其言ふ通りになつて、而も意思が固定をする、即ち宗教家などは悟つたと云ひますが、其悟りと云ふ境涯迄感情の固定が來て居つたら病氣に付て左程心配しない、さうすると大抵の病氣は直り方が宜いので、病氣を苦にしないで端然と其醫師の言ふ通りして居る人は、たとひ其醫師が左程上手でなくても、名醫でなくても、名醫をドン／＼訪問し

て彼處の名醫此處の名醫とグル〳〵廻るより醫師の言ふことを聞いて泰然と意思を固定した方が病氣の直り方が早いことは確かで、さう云ふことでありますから意思を固定することは長生きをすることに於て餘程重大なる秘訣であります、少しの病氣に罹つて狼狽したり心配する人は迚も長生きは出來ない、そんな人が病氣に罹つたら自分で病氣を惡くする、虎列拉の流行することがある、虎列拉は虎列拉菌と云ふ一の黴菌があつてそれが身體に這入らなければ病氣になるものでない、所が其黴菌は都合に依つて誰の身體にでも這入る、大きなものでありませぬ小さいもので、顯微鏡で見てまだ見えぬ位のものでありますから、犬や馬のやうな大きなものでない、身體の中に何時這入るか知れぬ、多少は這入つても自分の身體が丈夫なら構はぬ、それは衞生の上でさう心配すると今の感情が固定しないで胃の中の液が少なくなる、さうすると其中に鹽酸があつて虎列拉菌が這入るのを殺すのが殺されぬやうにすると虎列拉になる、心配して虎列拉になることは幾らもある、それは當り前で、泰然自若として居れば罹らぬものが心配した爲に罹る、他の病氣でもさうです、俗に氣分が確かなら大丈夫と云ひますが、其通り、氣分が確かと云ふのは是で、意思を固定して確乎と固めて置けば身體は丈夫です、昔から俗人の言ふあれは本統でありまして、殊に意思を固めて往くことは病氣丈けではない總て生活の有樣に於て大變必要なことでありますからして、狼狽しない躊躇しない、物事をチヤント眞面目にやつて往けば怪我もしないし、當り前の道を當り前に履んで往きましたらどうしても長生きが出來る譯であります。唯今迄は腦を規則正しく緊張させて使ふと云ふことを申したのですが使ふ丈けではいかぬから少し休ましてやらなければならぬ、使つた頭を休めるのには寢るのが一番大切で、それならば朝から晩迄寢て居るかと云ふにそれではいかない、腦を使ふのと寢るのを好い加減な割合でしなければならぬ、大抵大人であると七時

間か五時間半寢れば大丈夫、子供であれば十一時間か九時間、もつと多くても少なくても宜しい、九時間位寢ると云ふ人がある、又三時間で宜いと云ふ人がある、所が七八歲頃から十三四歲迄位の子供を五時間か六時間より寢かせないで二週間許りやると疲れる、又大人で四時間以上寢かせないと疲れる、其疲れ工合が食物が消化しない、血液が出來ない、身體が瘠せる、神經痛と云つて方々痛い、刺戟性になつて一寸したことに腹を立てることになるから、どんなに少なくても大人で四時間以上、子供で六時間以上は寢なければならぬ、所が小さい子供殊に小學校位に往きます子供は大人の寢るのとは意味が違ふ、大人の寢るのは唯今申したやうに一の仕事をして其仕事の草臥を直すのでありますが、子供の寢るのは寢た間に肥る、草臥を直すのと寢た間に身體を作るのだから子供は能く寢なければならぬ、寢る子は丈夫だと云ふのはそれで、大人は草臥を休めるのでありますから其寢方は充分でなければならぬ能く寢せなければならぬ、子供などは今御話になつたやうに八時に寢せて朝六時に起すと云ひますが、八時に寢ろ〳〵と云つて床に入れて大人が話をして居つては寢れない、寢ることの出來るやうに靜にしてやらなければならぬ、大人もさうで何時間寢なければならぬと云つても其寢方を平生から惡い習慣にしてはいかぬ、人の寢方に二通りあつて、一は朝型の睡眠で夜寢所に入つても愚圖々々して居つて中々寢付かない、それから漸次に寢て朝夜明け頃から深く寢るから朝になつて起きない、もう一つは夕型のもので寢所に入ると直ぐに寢て一時間乃至二時間の間は非常に深く寢て起しても起きない、それから三四時間經つと漸次淺くなつて夜明けになると淺くなつて居りますから何時でも起きられる、即ち朝早く起きる、前に申したのが夜更しの朝寢坊、後のが老人の寢方で、子供の寢方も大抵はその寢方であります、何方が當り前の寢方と云へませぬけれども、併しながら夜更しの朝寢坊は普通の人には少ない、殊に長命

をした人の大勢を調べて見ると其眠りの仕方をして居るのは極く少ない、是迄長生きをした人は所謂夕型の眠りと云ふ早く寢て早く起きる方です、眼の敏い方であります、此方は寢所に入ると直ぐ寢て其寢付きが非常に深く寢ますから頭を休めるに都合が宜い仕方で、其深い眠りは三時間位で濟みますからそれから後は起きても差支ない、有名な奈破翁は其眠りの方で、深き眠りが三時間で何時起きても宜いから三時間しか寢なかつた、世間の者は三時間以上寢るから馬鹿だと云つたさうでありますが、自分の眠りが深く寢ますから充分休めて翌日の仕事に少しも差支ない、もう一つの方は寢所に入つて能く寢付かぬで彼方へ轉がり此方へ轉がつて中々寢付かぬが、寢付いたら長い、自分の充分寢付く頃は夜明でありますから、之を朝早く起しますと眠りの深い所を起しますから仕事が出來ない、それでは寢ても本統に腦を休ますことが出來ませぬから其寢方は充分朝寢をさせてやらなければいかぬでありますが何方にしても眠りが充分出來れば腦の力を恢復するに足るのであります、長生きをするに付ては此眠りを充分深くして頭を休ますことに注意するのが必要であります、此點から云へば晝寢も充分する人はした方が宜い、是迄若いものゝ晝寢もするのは行儀の惡い方に屬して居りましたが、これは差支ないことに致したい、充分穩に腦を休ますことが出來るならば長生きをするに習慣の一として必要だらうと思ひます、色々例を擧げて御話をすればまだ色々あるのでありますが、四十分が參りましたから是で御免を蒙ります。

要點は長生きをするに必要な身體が充分出來たとして、その身體を心の方に唯今申したやうに仕事をチヤンと規則正しくする、腦を休ませない、それを緊張して緩めない、さうして心を固定させて、感情などを動搖しないやうにして往くことが長生きをするに大變必要なことである、其樣にした腦の働きを休ますには先づ睡眠が一番宜しいのでありますが、

睡眠を深くして晝でも出來れば相當に晝寢をして充分その働いた腦の補を付けるやうにする、これだけの事が充分出來れば長生きをすることは必然な事であらう、少々毒にならうとも、少々不養生がしてあらうともそれは大した妨げにならぬで長生きが出來るのであります、長生きをした人を銘々御自身に御考になつても大變弱い人が長生きをして居る、度度病氣に罹つて長生きをして居る、瘠せた人も肥へた人も長生きをして居る、能く御考へになると頭の使ひ方がよい、私の申した使ひ方が死ぬまで仕事をして居る人が長生きをして居る、これだけ申して御免を蒙ります。

叢談

衛生劇に就て

法學士　山崎佐

恰度暑中休暇を利用致しまして、東北北海道方面の醫事法制の現況を視察に出かけました。其出發前室蘭に「コレラ」患者二名發生したと云ふことを聞きましたから、室蘭に廻つて其狀態をも視て來樣と思ひまして八月二十七日の彼方でも暑い最中に參りました。

室蘭港は御承知の如く、北海道南東岸の盛なる港でありまして、人口三萬餘もあり附近には日本製鋼所や製鐵所等もあり其職工丈けも四千人餘あると云ふ有樣でありまして、其中三分の一は室蘭町中より通

勤すると云ふことであります。其外港には荷揚人足五百人も居ると云ふ有様でありますから、一度「コレラ」の様な劇烈な傳染病に侵されますと非常に危險でありまして、如何なる悲惨事が起るかも知れぬと云ふ様な場所柄であります、然るに二人の患者を出しました後は全く其跡を絶ちました様子でありますから之は實に喜ばしいことであると思ひまして參つた次第であります。

同町署長の松本警視が日曜日であるにも拘はらず態々私の爲めに御出勤なされて、種々其狀態に付き御話下されました、其中衛生劇が非常に效を奏して、其爲めに一般人が衛生や傳染病のことに就き充分悟得して居つたから後が發生せずして濟んだ、誠に喜ばしいことであると悦ばれて居られました。此御話に出ました衛生劇に就き一言茲に御紹介致しまして皆様の御注意を促そうと思ふのであります。

衛生劇は、東京方面では全く聞きませんが、北海道や東北方面では盛に奬勵し各團體で爭つてやつて居るものでありまして、其效果は實に著大であると云ふことであります、今は便宜の爲め室蘭で見たり聞たり致して參りましたもの丈けを申上ることゝ致します。

室蘭では衛生劇を始めましたのは昨年からで今年其二回をやつたのであります、其方法と致しましては室蘭町に往て居ります新派俳優中最も評判の宜い連中に豫め依賴致して置きまして、其連中は平素閑を見ては町立の室蘭病院や、警察や、傳染病院等に參りまして治療の實況、傳染病の話や、傳染病取締法規のことを尋ねたり見たり致して置き、之れを自ら脚本に仕立て尙町立病院の醫員、警察官其他衛生組合員等其關係者と相談して誤れる處を直し、不足を補ひまして一つの脚本を作るのであります。

愈々初夏の候になり、世間では衛生講話でもと云ふ時分に、室蘭で一番大きい劇場を借りて、此衛生劇をやるのであります。町には衛生組合と火防組合とが

ありまして各組合から五十圓宛合計百圓を出しまして役者連中に禮を致し、衛生劇の外に火防劇もやるので有ます、之も大變效果があり一般低級の町民の爲に非常な感動を與へると申して居りました。劇場料は劇場主の寄附電燈料は電燈會社の寄附と云ふ様な譯けで一般見物人よりは三錢の下足料を取り之を以て諸雜費其他に當ると云ふ仕組になつて居るそうであります。

然るに愈々其當日になりますと、衛生劇も火防劇も滿員客止めの盛況で、又見物人一般にも非常に深い感動と決心とを與ふる様子が充分見えると云ふ有様で、之は彼の窮屈な衛生講話等の比でないと云ふことであります。

今年室蘭で致しました衛生劇の筋書は彼様でありました。

「人の命」と題しまして全六齣であります、

序幕は檜山町衛生思想鼓吹講話會場でありまして、舞臺は衛生講話場の有様、町醫の某が八種傳染病の性質や、豫防其他一切の心得を講話致しまして下手には町民が大勢之れを聽て居る、其中講話の終ります時分に、其町で有名な高利貸の何金之助とか云ふ者が飛び出しまして、衛生講話とは實につまらぬ彼様なことならば家に居つて錢勘定でもする方がよいと申して騷ぎ立て其妨害を致しますと、聽講者一同之に習ひまして講話よりも活動の方が面白い、何んだつまらぬと口々に講話會を譏りまして下手に入り、其後に殘りました町醫が傳染病も各地に盛に流行し今に當町に來らんとして居るにも拘はらず、町民が少も之れを省ず、衛生講話會を妨害する様では實に殘念であると悲憤の涙に暮るゝ處で幕になります。

二幕目は同町傳染病院患者室で、玆で一般人民が傳染病院は恐ろしき牢獄の様に思つて居る思想を破る爲めに、美しい深切の有様を種々見せ、同町も愈愈傳染病に侵さるゝに至つたと云ふ様な噂を致して居る、友山義軒と云ふ病人に見舞人が來て、町醫員看

護婦に知れぬ樣袖に隱した菓子を進めると義軒が傳染病は恢復期が最も緊要である醫師の許の出ぬものは如何に進めても喰はぬと云ふ筋を見せ、其中看護婦が來るので見舞人があはてゝ之れを隱すと云ふ面白き振が然る可くあるのであります。

偖傍には前回衛生講話を妨害したる金貸の何金之助も入院して居り、少しも醫師の希望に從はぬ爲め非常に苦しみ居る中何か營業の手違ひより破産になると云ふ報告を聞き、始めて自己の惡しきを知り、親戚の人に自己の非行を悔ひ自分が衛生講話を妨害した爲めに同町一圓に彼樣に傳染病が流行する樣になつた、若し彼時より醫師の話を聞けば彼樣なことにはならぬ尙自分は病氣にて營業を見られぬ爲め破産する樣に成り今更致し方がないから自分の一子を外國に留學せしめ傳染病を研究し一日も早く歸朝して我國の傳染病を撲滅せしめる樣にと云つて死亡すると云ふ處にて幕。

同返し、友山義軒の宅、醫師の言付を克く守りし爲め早く全快したるを喜び義軒が傳染病院の設備の完全醫員の深切等を物語り病氣に罹れば成可早く屆出る方がよいと云ふ樣なことを視に來た人に話す、町民等は傳染病が日々烈しくなる噂をなし之れは衛生講話の妨害をした何金之助の罪である彼時金之助が妨害せずば彼樣なことにはなるまいと云ひ合せ彼の家も其爲め愈々破産したと云ふのも天の報ひだと恨み會ふ處幕。

三幕、牛ケ淵投身の場、町民一同は何金之助の悴を取卷き此町に彼樣に益々傳染病の流行するのは汝の父の御陰であると云つて悴を毆打暴行し悴は種々言譯せんとするも聞かずして一同去る悴は父の遺言により米國に渡り傳染病を研究せんとして桑港迄で行きたるも平素不養生の爲め「トラホーム」と十二指腸蟲の爲上陸を禁せられ、止むを得ず歸國すれば此有樣と云つて其不幸を嘆じ遂に牛ケ淵に投身せんとする處を通行人に助けられ玆にて「トラホーム」及十二指腸蟲の豫防治療等の說明程よく有て然らば全快

を待つて再び渡航すると云ふ處幕。

四幕、檜山町庚申塚附近。

悴某留學を終り傳染病を充分研究して歸鄕したるも同町は尙引續き傳染病やまず悴の顏を見るより町民は其父の爲めに數年引續き傳染病は止まぬとて種々傳染病に關する悲慘事を物語り悴某に暴行せんとす、悴は傳染病を研究し歸朝したること此後は專心其豫防に盡力することを述べ米國より連れ來りたる新婦と共に專心傳染病治療に盡力する處にて幕。

大詰、檜山町傳染病撲滅祝賀並に表彰會。

さしも數年流行を極めたる同町の傳染病も悴某及其新婦の盡力により全く撲滅したりと云ふ町民の噂に幕が開き種々撲滅に關する演說其他醫員に對する感謝の演說があり玆にて又傳染病の恐る可きことゝ恐る可からざることとの話がありて幕となるのである。

筋書は大體彼樣なものでありました多少の無理も有りましよう、然し面白く見て居る中に知らず〳〵傳染病に對する思想を注入すると云ふ點は確かに成功すると云ふことであります。

唯今東京では「コレラ」病の流行に吾も人も皆不安を抱て居りまして、或部分は滑稽な程恐れ、又恐れて居ながら衞生思想のない爲めに專門家から見ますと隨分笑ふ樣な豫防衞生をして居ることは少くないと思ひます、例は漁夫に「コレガ」が多いと聞ては魚は危險だと云つて魚を煮て喰ことも危險の樣に考ふるなどは確かに過たりと云ふ樣なものであり、一體傳染病のことなどは其流行する以前から大體の觀念を知つて居ることが最も必要でありますのは申す迄でもないことでありますが、若し一度流行致しますれば尙更のことであります、世間でやれ衞生講話だの衞生幻燈だのご騷ぎましても、例の無味乾燥のものでは如何しても低級社會を通じて一般に其思想を鼓吹することはなか〳〵困難であります、況や東京の樣に所々に活動がありまして手輕に見物の出來ます處では餘程面白く致しませんと折角の衞生講話も幹

部丈けの會となる有様であります、彼様な事情の下に於きましては衛生劇の様な比較的目新しいことを致しますと、意外の成功を得ることは左程困難ではなからうと思ひます其主催者は此婦人衛生會の方々は結構でしやう、花の會とか水の會とか何でも宜いので、誰れでも眞實傳染病の流行に付て御心配に成られて居る方々が相寄合ひまして計畫致しますれば、左程困難のことは無からうかと思ひます殊に東京には役者も相當の者が得られます、場所も選擇が自由で、脚本も専門の方に閑を見て作つて頂きますれば容易でしやうし、又傳染病に付きましては専門の大家が澤山居りますから、室蘭で成功を納めましたと同様の功果は決して難くないと思ひます、若始めから公衆一般に公開致しますのが御懸念ならば皆皆様方の下女下男に慰安の御積りで見せましても是亦無駄ではないと信じます。

北海道の歸り弘前へ一寸立寄りますと、此衛生劇が濟みました後で決算報告が新聞に出て居りましたが、是亦餘り費用を要せずして非常の成功を得まして成功祝をすると云ふことであります、成功祝は如何でも宜しう御座いますから、切に皆様の御力により此衛生劇の實施を御願致します目下は實に最上の時期であると存ます。

美容術に就て

醫學士　坂口　勇

（本篇は坂口學士が實驗醫報誌上に說かれたる大要なり）

人の外見を美ならしめんとする方法卽ち美容術は、其起原頗る古し。蓋し己れを飾らんとし、その外觀を出來得る限り美ならしめ、あらゆる醜惡の外觀、人の感情を惡しからしむるもの、外形を僞くるが如きものを除去し、人體の缺點畸形を努めて改良し、又は之を隱蔽せんとするは人の本性なり、而して人の以て美なりとする所以古今東西風土國民に依り常にその趣を異にす。人類に於ける美容術が世

の進歩と共に一は學問的醫學的に發達し、他は此觀念竝に方法通俗的に發達し主として非醫者が司る處となり、狹義の化粧術と變ぜり、即ち專ら皮膚に白色の外觀を與ふる白粉、「パスタ」等を用ひて外貌を欺かんとし、內因の如何を論ぜず、之を長く持續使用するときは皮膚の色澤光艶を改善せしむるよりも多くは障碍するを常とす。斯の如くにして人類就中文明人の好美心は、往々非醫師、詐欺的化學者、貪慾の藥劑師、理髮師、結髮師等の乘ずる處となれるは已むなき處なり、而して近代に於ける醫學の進歩に伴ふ整形手術の發達、理學的療法殊に電氣、電流、光線療法の發見改善は益々美容術の施す可き範圍を擴張し愈々その術の複雜となれるに拘はらず、本邦にありては未だ上述せる化粧法竝に醫學的療法を併用し完全に美容術を施行する設備も著書も皆無なるは余が甚だ遺憾に思ふ處なり。然れども今、所謂美容術の中より凡て醫學に亙る美容的技術及び藥劑を僅か數項中に論せんことは不可能なるにより、余は一二の項に就て玆に記載せんと欲するのみ。

水の使用法　水は美容術に缺く可らざるものなり、軟水をよしとす、硬水は曹達を加へ又は煮沸して石灰分を去り使用す可し。然らざれば皮膚の粗糙を來す、美容の目的には之に硼砂を混す可し、尚「カンフル」を混加せば皮膚の血管に因る發赤又は新生を防ぎ得可し、一二の處方を擧ぐれば

硼砂	一・〇
カンフル	一・五
蒸餾水	二五〇・〇

之に香水數滴を加ふ可し、クーク氏「バルサム、オフ、ライフ」と稱するもの是なり、及は

硼砂	〇・五
グリスリン	四・〇
蒸水	七〇・〇
橙皮油	一〇滴

リュシアン氏の洗滌水と稱するもの是なり、斯の如き

製劑を毎朝洗面器中の水へ一乃至數食匙加へて使用し、夕時には

硼　砂　　　二・〇
牛　乳　　　一〇〇・〇
薔薇油　　　二滴

を同様に使用せば一層佳なり。

い、溫湯は優良なる美容料にして冷水に優る所多し、微溫湯を用ふれば皮膚を弛緩せしめ寒溫の變化に感じ易くす。故に後ち冷水洗滌又は灌水すれば皮膚は強固となり寒冒を防ぎ得可し、溫湯には諸種の藥品を加ふることあり、其特殊の目的に依り糠浴、鹽浴、「リゾール」浴、松葉浴、解皮浴、硫黄浴、泥浴、釜兒浴等使用せらる。

い、蒸氣は皮膚の角層を軟化せしむ、顏面にある浸潤硬結等には好で使用せらる。蒸氣浴是なり。吸入器の稍く大なるを用ひ、先端に大なる硝子又は布片製の筒を接續し、蒸氣を目的の部に作用せしむ、霧散す可き水に硼砂、「グリスリン」、石鹼精等を用ひ、且つ之に香油の微量を加ふれば甚だ快感を與へ且つ有效なり。

「リント」、「タオル」の如き布片を溫湯につけて絞り之を以て顏面を暫時罨法濕布するも同様の目的を達し得可し。

美容的「マッサージ」

顏面にある皺襞を去り、弛緩乾燥せる皮膚に榮養を高め滑澤濕潤ならしめ、脂肪の充塡に由る豐滿容姿を與へ或はその部に蓄積せる脂肪を除去す。

凡てこの技術はその目的を知れる應用により達せらるゝものにして、患者が偶然一回「マッサージ」を受け又は瞬時の感激によりて顏面を捏り又は摩擦せしのみにては效なかる可く、毎日且つ多くは月餘の處置を必要とす可し。故に忍耐力なき術者被術者においては、その目的を達せざるのみならず往々却て有害なることあり。顏面は如何に「マッサージ」す可きやを簡潔に說明せんことは困難なるも、要は患者自身よくなし得る諸種の機械及び皺襞延ばし、護謨皮

等は術の補助に過ぎず、年齢と悲哀に刻まれたる皺襞には深く骨に達す可き「マッサージ」を要す、而かして斯の如きものに顯著なる成績を舉げんと欲せば、六週間少くも每日十五分乃至三十分間「マッサージ」せざる可らず。この目的には筋骨の解剖を熟知し、美容術を理解する醫の施術を乞ふこと最も適當なる可し、決して筋の方向に反して行ふ可らざるは勿論なり。其他胸腹部、頰、眼瞼等の「マッサージ」は約三ヶ月の施術繼行を要す。

技術に就ての一般注意　「マッサージ」には皮膚に塗脂せず、唯甚だしく乾燥し脆き皮膚にありては先づ手を洗ひその尚ほ濕ほへる中に僅かの「ワゼリン」を塗り手拭にて拭ひ取りて行ふ可し、又は少量の「クリーム」を顏面に使用するも可なり。

揑撫　は以上の目的には強く行ふ可く、啻に皮膚の榮養を高め艶麗ならしむるには輕く行ふ、強き按摩を行ひ時として、靑斑を生ずるが如きことあるも直に消失し無害なり。顏面にありて強き按摩法は四肢の「マッサージ」と異り手を動かすよりも深く壓するが如くす可し。「マッサージ」の前後には皮膚を酒精、「エーテル」、又は「ベンチン」にて拭ひ去る可し、「マッサージ」はその目的により皮膚血行をよくし艶麗ならしむる時、皺襞を去らんとする時又は特別の疾病治癒の目的等により技術の異るあるも其法宜敷きを得ば慢性の濕疹及び顏面の發疹等にして年餘種々の軟膏又は光線療法に抗せしもの數週の「マッサージ」にて全治せしめ得ること往々あり。手は上述の如く最も完全色好の「マッサージ」器なるが、特殊の目的に手よりも良好なる「マッサージ」器は震搖器なり、唯だその顏面及び美容的「マッサージ」の應用たるや僅少の領域にあるのみ。

吸角も亦「マッサージ」の特別形にして、硝子筒あり、複雜なる器又は簡單なる護謨球を之に裝置して眞空さし皮膚に貼用す、斯の如くして皺襞は熨斗せられ毛孔、汗孔に載積せる汚物を除去せらる、故に自他「マッサージ」の補助として用ひらる、されど之のみ

に任せば效果もとより論するの價なし。顏面の多くの部にありては皮膚と皮下との結合弛緩す、爲めに却て有害に作用することなしとせす。故に之は特別に醫師の注意を要す可きなり。

悲哀に因る疾病と稱せらるゝ皺襞を去らんには、普通美容術に於けるが如き「マッサージ」のみにては成績望み難く、力を用ひて全皮膚凡て皮下、骨に至るまで「マッサージ」を及ぼし新陳代謝を變じその構造を變じ一樣に新鮮ならしむ可し。其詳細なる點に至ては音樂美術の妙技と同樣一々之を說明する能はざるも、以下唯だその骨子となる可きものを示さんとす。個々の場合に成るものを變じ又は廢し又は混用す可し、就中顏面の「マッサージ」は個々特別に行ふ可きなり、胸腹にありても壓迫の多少脂肪組織の多寡其他の狀態によりて變更す可きものなり。

一般顏面「マッサージ」術

被術者は椅子に坐し術者はその後方にありて日々二十乃至三十分間施行するものなり。その使用する力と方法は一にその目的に關することを忘る可らず、前額にありては術者は兩手を用ひ全前額を縱横に捏撫す、皺襞は又特に「マッサージ」す可し、中の三指を置き皺襞の方向に直角に皮膚を一仙半の幅に撮み擧げ（この時一方が他方の下へ食ひ込むことを避く可し）。この撮める皮膚の隆起へ間歇的の壓を加ふ可し、之を反復して全前額に及ぶ可し。「マッサージ」には兩手の拇指以外の四指にて前額の中央より同時に扁平の圓を畫きつゝ顴骨に及ぶ可し、鼻にありては兩手の示・指間に眉毛間にある鼻根を取り螺旋狀に捏り側壁と鼻翼は拇指と示指を用ひて捏る。兩頰にありては直角に屈げたる示指と拇指間に顴骨の周圍より兩頰を不規則に捏る可し、按撫には鼻側は壁より附著せる拇指腹を平手の小指の側を前面とし圓を畫いて耳根に及ぶ。上脣は中及び藥指を用ひ中央より耳朶に及ぶ、鼻脣溝は兩手の拇指と示指を用ひ皮膚を撮む可し、下脣は兩手の終三指を以て頤の中央より輕く圓を畫き耳朶に至る、皮膚を牽引すること

なく弛緩緊張す可し、個々の「マッサージ」の間又は全「マッサージ」の終りに行ふ可き、全顏面の皮膚緊張をなさんには、前額に指をなる可く密にあて四指を以て前額皮膚を下に拇指は之を上にし耳根までの皮膚を震搖せしむ可し、

按撫には全指を用ひ前額より兩顳顬に向け「マッサージ」を行ふ可し、技術を終れば酒精、「エーテル」、「ベンチン」の類にて皮膚を淸淨ならしめ、刺戟なき「クリーム」類を使用するは最も可なり、一二「コールドクリーム」の處方を示せば

白蠟	五・〇
鯨腦	八・五
甘扁桃油	三〇・〇
薔薇水	二・五
グリスリン	二・五
薔薇油	一滴

椰子油	五〇・〇
薔薇水	五・〇
薔薇油	一滴

澱粉	五・〇
薔薇水	五・〇
グリスリン	九〇・〇
薔薇油	二滴

パーキンス氏「グリスリンコールドクリーム」

斯の如くせば皮膚の光澤艶麗を增進し、顏面皺襞、慢性濕疹、痤瘡、脂漏、皮膚の浸潤硬結等は容易に治癒し得可し

毛髮の手當

毛髮は男女共に規則正しく洗滌し、櫛と刷毛とを用ふ可し、毛髮を障礙することなし、冷水は毛髮洗滌に效力疑はし、微溫又は溫湯を使用す可し、冷水の灌注は時として落毛を由來することあり、洗滌には加里石鹼精を多量に使用し水を加へ手指掌を以て十分に泡沫を起さしめ約五分間その儘にし、男子はこの間に化粧、剃刀、齒磨を使用したる後、毛根よりよく洗ひ落す可し、石鹼精は臭氣よろしからず婦人に好まれず。故に

白色加里石鹼　二分
酒精及びグリスリン　一分
香水加入

又は卵黄四個を一食匙の「アンモニア」水及び一〇〇瓦の加里石鹼精に加へて振盪し、一食匙半の硼砂を混じ、水を加へて全量を一「リートル」とす、本品は使ひ終るまで有效なり。頭皮に落屑多き人は流動性の釜兒石鹼を使用するを良とす、加里石鹼精中に五%の釜兒(英國製石炭釜兒は最もよし)を加ふ可し、人の好んで使用する「ピキサポン」即ちこれなり、俗間に使用する、洗滌藥、毛髮劑は無數にして内に毛生藥と毛髮洗滌藥とを分つ、多くは高價の佛國製品なり、毛髮洗滌の目的には頭皮と毛髮を豫め溫湯にて洗滌す可し、然らずして毛髮の上に所謂洗滌藥を振りかけて擦り込み、刷毛と櫛とを以て理髮を終れば、汚穢の塵埃は微細に分布せられ、落屑と皮脂は乳劑の如くなりて毛孔に擦り込まれ、毛の發育を害す可く、頭皮は淸潔になることなし、洗滌後は塗擦す可し、販賣品中には之を加入したる毛髮劑多し、

毛髮の熨斗法

高熱の鏝を用ひざれば(兩鐵片の間に半紙を置き黃色となる可らず、顏面に當て唯爽快に感じ熱からざる可し)毛髮を旋轉卷縮せしむるも多く有害ならず、全體美容の原則として毛髮の黑きは眞直なるを貴び、金髮は稍ゝ卷縮するを良とす。一般に加熱せし鏝や火熨斗を用ひざるも粘着力強き「バンドリン」又は「ブリリアンチン」を使用し容易に毛髮を卷縮せしめ得可し。

倘ほ毛髮病に就て一言せんに

婦人の髭は吾人に惡感を起さしめ甚だ忌むべきものにして、美貌を害すること大なり、故に古來諸種のい、い、脱毛劑使用せらる、

硫化バリユーム　一〇・〇
亞鉛華　五・〇
澱粉末　五・〇

を混じ水を以て濃厚の糜狀物とし小刀の背位の厚さ

に局部へ塗布し五乃至十分間放置す可し、後洗滌して「クリーム」を使用す、斯の如くせば毛髮は脫落するも時を經て再び發生す可し。之を反復すれば、その部の皮膚は、時として炎症を起し皮疹を生ずることあり。本邦人に見るが如き黑毛に對しては、寧ろメルク製の五%「ペルナトロール」水を以て脫色して毛の見えざる樣にするを良策とす、永久の策としては勿論電氣分解法又は「レントゲン」光線に依て除去す可し、髮際部を正すにも是等の諸法は又應用せらる、

○落毛は生理的にも日々五十本位迄を算するものとす、何となれば毛髮も一定(平均二三年)の生活期を有し新陳代謝すればなり、故に死亡し、榮養を缺ける毛髮の脫落は止むなし、病的の落毛は殊に男子も來り恐るべき禿髮を由來す。その原因も療法に種々雜多なり。

生毛藥として有效なるは電流と藥品にして、電流には感電及び平流電氣、正しく分量せる「レントゲン」線、藥としては細末とせる規那皮を酒精に溶けるもの、焦性沒食子酸「クリーム」の類なり、頭部の全然禿げたるは發毛の望み少けれど、往々斯くの如きものにも著效を見ることあるは忘る可からず。元より斯の如き人士の治療は試驗的と考ふ可し

染毛藥

○染毛は毛髮の上表を著色するのみ、故に時と共に化學的機械的に變色するが故に反復せざる可らず吾人は毛髮を毛根より染め上ぐる藥品を有せず、染毛は多く理髮師、結髮師に行はれ、醫の相談を受くるはその爲め皮膚の刺戟せられ炎症を起し又は毛髮を障碍せし時に限る。胡桃皮煎出液、「パラフェニールヂアミン」溶液、焦性沒食子酸、硝酸銀等は一般に使用せられ、數多の製劑又存すれど本邦人に相當す可き色澤及びその濃厚の度、使用方法を誤らば單に目的を達せざるのみならず毛髮頭皮を障碍すること少しとせず。以上述ぶるところは美容術の緒論の一部に過ぎず、殖毛術、組織移植術、整鼻術、

整眼術の改良、其他個々の疾病に至りて詳論せば純然たる醫學の一大分科を形成す可く、僅少の項を以て敍述すること不可能なる可し。

電車衛生

今村重敎

抑電氣事業の發展と否とを見れば其國が文明であるか未開であるかと云ふことは粗推知するに足るものであります吾邦は輓近電氣事業日に月に勃興し山間僻地に至る迄普及せられんとする狀況であります看られよ往時にあつては燈火用としては朦朧として輝く彼蠟燭、種油、又は魚油を使用して滿足し居ましたが維新後歐洲の文物制度吾國に輸入以來俄然として街面目を一變し光力强烈なる石油「ランプ」を歡迎・賞用するに至りました間もなく再變して光力尤も熾烈なる瓦斯燈を歡迎するに至りました夫れより更に三變して今や無限の光力を發揮する電燈時代に豹變せんとする有様であります、動力としては往時は主として人間力、動物力又は水力に依賴しました維新後は蒸汽又は瓦斯を各方面に應用するに至りました近時は漸々一變して電氣力を使用して諸般の器械を運轉し又は電熱若くは電波を應用して電燈電信、電話、醫療用、家庭用、戰事用等に歡迎せられ其料金低廉なるにより需用範圍益々擴大せられ斯くして吾國の電氣化せらるゝ時代卽ち電氣萬能時代は近き將來に於て實現せらるゝならん今や交通機關として尤も適當なるものは電車にして此起原は東京市に於ては明治二十三年三月第二回東京博覧會上野公園に開催の際該會場の裏手に於て試驗的に敷設せられたるを濫觴とし次に市民の乘用したる始めは東京馬車鐵道株式會社の東京電氣鐵道株式會社に變更せられたる時卽ち明治三十六年八月品川より新橋に至る間に開通せられたる時なり夫れより年を逐うて上野淺草方面に延長し市區改正と同時に漸次山

の手方面に開通せられしに依り該土地は俄然繁榮の街衢に豹變し市民の便益を得ること莫大なれども危險不安の念慮亦之に伴ふことを察知せざるべからず今夕御集會の諸君は一人として電車に乘らざるものなし多きは一日二三回少くも毎月一二回位乘用せらるゝならん故に電車に付御注意申上げることは無用のことにあらずと思ひます。

諸君は電車は危險のものであり一歩誤らば人殺しの器械に變ずるものであると云ふ觀念を腦裏に刻みて電車に乘られしならば決して間違のある筈はなし併しながら餘り慣れになると終には飛乘飛降横切などを面白半分に爲し自慢話にする人などは畢竟不慮の大怪我を招きます或は人命を落すことも往々あります改悛せざるべからず。

扨東京市內電車の乘客數は毎日少くも七十餘萬人多くは百餘萬人車掌運轉の數は毎日朝の間は九百三四十臺晝の間は六百四五十臺夜の間は八百二三十臺車掌運轉手の數は凡そ五千人勤務時間長きは一日中十四時間短きは五時間軌道の長さは一百五十九哩○九四晝夜共一時間に八哩の速力を以て運轉す如上の乘客中死傷者の數を申し上ぐれば大正元年間には一千百九十四人內死亡者十二人重傷者六十三人輕傷者一千九百十九人大正二年間には二千百九十七人內死亡者十五人重傷者八十九人輕傷者二千○九十三人大正三年間には一千九百五十七人內死亡者十三人重傷者一百○三人輕傷者一千八百三十七人此三ケ年間の重傷者中後日に至り餘病を併發して致死するものあらんと察すれども其數不明なり、以上の死傷者は凡て監督の手に掛り記帳せられしものなれども監督の手を經ずして打撲傷擦過傷又は顚仆するものの數は毎日枚擧するに遑あらず。

電車に乘る時の注意　(1)電車全く停止の時に車掌臺の左側より乘る事（右側には行違の電車、電柱、鐵があります）先づ右手にて右把手を固握するか又は左手にて左把手を固握して右足左足又は左足右足にて踏段次に牀上に登るや否や、(2)直に車臺に取付けあ

る橫桿を固握すべし滿員の札あるとき又は降客の終らざる間は乘るべからず然らざるときは混雜を來たし却て發車を遲くれさせます　(3)運轉手臺より乘車するには注意すべし　(4)電車の動き始めたるときは必ず飛乘りすべからず特に運轉手臺より飛乘りすることは絕對に禁止せざるべからず　幸に飛乘ることを得るも上肢筋の挫捻を惹起すること往々あり萬一乘り損じたるときは大怪我又は致命傷を受くることあるは每度目擊する所なり。

電車內の注意　(1)成丈け左側の中央腰掛を擇むべし是れ中央は動搖最も少し且左側は行違の電車又電柱なき爲め小兒同携の時は危險の恐れなければなり

(2)立ち居るときは吊籐を固握すべし。吊籐を握るも股附を少く廣げ下脚に力を入るべし最も車體の運轉方向に注意すれば吊籐を握ぎらざるも顚倒する虞なし　(3)入口の引戶に凭り掛り又は窓硝子に頭部顏面を貼し居るときは急に電車の停止するときに怪我することあります　(4)窓より手又は顏を外出すべからず是れ行違の電車又は電柱の爲めに大怪我又は卽死することあります　(5)傳染病、神經病、中風症、肺病、心臟病、腦病の人は乘車を禁止せらるべし

(6)酩酊、喀痰、喫煙、喧噪等他人に迷惑をかくる行爲をなすべからず又厭忌の感を起さしむべき疾病不潔の容裝を爲すものは乘車すべからず　(電車取締規定電氣鐵道取締規則)　(7)電氣裝置の器具に手を觸るべからず。

電車より降る時の注意　(1)電車全く停止したる後車掌臺より降るべし降るときは右手に把手を固握し左足より下り右足の地に著きたる頃手を離し身體を車體の進行する方向に前進する樣心持を取られたし

(2)停止せざる內に飛降るは危險なり大怪我又は腦振盪を起して卽死すること往々あります特に運轉手臺より降り損じたるときに然り　(3)小兒老人の如きは停止せざるに誤認して降車せし爲め危險を招くことあり　(4)停止せざる間に早く運轉手臺に立出でざる樣にすべし是運轉手の作業上に妨害を起し乘 客に

迷惑を掛くることがあります　(5)降車後線路内に足を踏み入れ乗車券を購ふときは危險なり是れ跡より來る電車に挾まれることがあります

電車軌道を横ぎる時の注意　(1)先づ左右を顧み電車の進行し來るや否を認めて後注意して線路を横ぎるべし　(2)電車の直後より線路を横ぎるときは行違の電車に突き當り危險を招くこと往々あります故に少くも一車身半を隔て注意し線路を横ぎるべし　(3)電車の前面を横ぎるには車體の未だ進行し始めざる内に通り過ぐべし萬一車體微動し始めたるときは一車身半を隔て注意して通過すべし電車の疾走する際に於て運轉手急に之を停止せしめんとして電流を絶縁するも車體は惰性にて一車身半は必ず進行するものなりボギー車の長三十六呎乃至三十七呎短車の長二十五呎乃至二十七呎軌道の幅四・二呎之に依り疾走する電車の前面十五間以内に最危險區域たるを察知せらるべし。

以上の注意事項逐一嚴守せらるゝも萬々危險なしとは申されませぬ何となれば運轉手又は車掌に於て往々過失が御座ります今其例を擧ぐれば大正二年十月より大正三年九月に至る一ヶ年間に於ける事故數三千一百三十八件中二千一百八十八件は被害者の過失九百五十件は被害者と當事者との過失卽ち一百件に對し三十・二七件の割合になつてをりますから此際市民は其筋に向て熟練せる運轉手車掌を採用せらるることを懇願すると同時に市民は一層の注意を拂つて此文明の利器を善用せられんことを切に希望する所以なり

ニキビの話（下）

賀川哲夫

前々號からの引續として此處にニキビの治療法の御話を致す、前に述べて置いた通りニキビの原因は深く身體の内部から來て居るものであるから只顏に美

顔水とかホーカーとか又は其他の化粧水を塗り付けただけでは必ずしも治るものではない、併し場合に依つては治ることがあるから之等の化粧水が相當に愛用せられて居るのである、私の考へでは此化粧水で治つたのは本當ではなくて只化けて居るのであると思ふ、何故なれば化粧水とは化け粧ふ水であるからである、然らば根本的に治すには如何致してよきやと云ふに必ず身體内部に在る病因を除くことを企てねばならぬ、此目的に最もよく適ふのは身體洗滌法とも云ふべき靜脈内注入法である、例へば生理的食鹽水とか鹽化「カルチウム」液などの一定量を血管の内に注入するのである、毎日一回又は隔日に一回此注入法を行ふと血管が洗滌せられて身體内に在る毒物が洗ひ出されて了ふと云ふ次第である、但し此治療法は斬新の方法であつて未だ普く應用せられて居ない從つて其實際の價値も未だ充分明白ではない、前にも述べた通り胃腸障碍のために一種不明の毒物が腸の内で出來てこれが血液の中に吸收せられてニキビの原因となることがあるから、此毒物を追出すためには下劑を使用するのである、下劑には峻下劑と緩下劑との二種類があるがニキビの時には緩下劑の方を用ふ之れは作用が緩和であつて、胃腸に害を及ぼさないで便通を充分にする作用を以て居る、緩下劑と云ふ内には色々あるがニキビの時には精製硫黄を用ふる、此藥は腸内の腐敗醗酵を制止する作用を持つて居る。

處方　精製硫黄　五瓦

右三包となして一日三回分服

精製硫黄とは硫黄を精製したもので一名硫黄華とも云ふ全く無味で僅に硫黄臭を帶びて居るけれども單味で決して服用し難いものではない、水に溶けないから湯で服用しても此硫黄臭が厭氣を催すことは決してない、乳糖や白糖などは却て混和しない方が宜い、硫黄の藥としては複方甘草散と云ふものがある。

處方　精製硫黄

茴香末	各一分
旃那末	
甘草末	各二分
白糖	六分

右混和食前一瓦宛服用

其外普通に使用せられる緩和下劑も亦使用して良い。下劑を用ふると同時に食物にも注意せねばならぬ腸の中で腐敗醗酵するものの例へば芋類、豆類等を避け又脂肪に富むものの味辛辣のもの等は用ひない方が良い。之等の注意を怠らないで同時に毎日入浴し刺戟性の少い石鹼例へば加里石鹼などを用いて皮膚を清潔にすることを怠らなかつたら多くは治癒して了ふ故に別段にニキビ取り藥を用ふる必要はない。若し強て外用藥を用ひんとする人には初めて種々の化粧水を御勸めするのである。使用する水は軟水を用ひねばならぬ、軟水とは石灰分を含んで居ない水のことで、石灰分を含んで居る水(硬水)なればこれに曹達を加へて煮て其石灰分を除いて使用するのである、冷水は皮膚に害があるからこれを微溫湯として用ふるのが良い、硼砂を加へた溫湯は最も適當である、少し贅澤を云へば次の樣な藥液を加へて用ふるのである

處方	硼砂	二・〇瓦
	樟腦	一・五瓦
	蒸餾水	二五〇・〇瓦

右混和(クック氏水)

處方	硼砂	〇・五瓦
	グリスリン	四・〇瓦
	蒸餾水	七〇・〇瓦
	橙皮油	十滴

右混和(リュシアン氏水)

右の藥液二、三滴を洗面湯に加へて用ふ、牛乳で顏を洗へば美しくなると云ふことは今日誰でも云ふことで、レートと云ふ化粧水まで出來て居る樣な次第である、因に云ふレートとは私の想像では Lait と云ふフランス語を英語讀に讀んだ名稱だと思ふ。其意味

は牛乳のことである、此牛乳にも硼砂を加へて用ふるのがよい

處方　硼砂　二・〇瓦
牛乳　一〇〇・〇瓦
薔薇油　二滴

これ位の處で普通のニキビならば治癒するものである、併し時として却て頑固で右の様な處置では少しも治癒しないことがある、此場合には所謂ニキビの藥と云ふものを使用するのである、俗間には色々の藥が用ひられて居るがそれ等のことは此處では述べないことにして、此處では吾々が日常患者に與へて居る藥品を列記するに止める

處方　硫黄華　二〇・〇瓦
樟脳　一・〇瓦
護謨漿　六・〇瓦
石灰水
薔薇水　各一〇〇・〇瓦
右混和クンメルフェルド氏液

此クンメルフェルド氏液はニキビ藥の王とも云ふべきもので随分善く效くものである、此藥は右の處方に從つて造ると決して透明な水液を獲ることは出來ない、之は硫黄華が水に溶けない性質のものであるからである、丁度牛乳様に溷濁した水液である、これを用ひるには次の如くにする、此藥液を罎に入れて一時間位靜に置いておくと、硫黄華が罎の底に沈降して白い層が出來上の方には透明な水液が出來る、そこで晝間は此透明な水液を二、三度手掌で善く顔に擦り込み、夜間牀に就く前に罎底にある沈澱物を顔に擦り込むのである、此時は上の透明液を別の器に別け取つて沈澱物を耳掻の頭の様なもので取つて附けるか或は又罎を善く振つて藥液が牛乳様に溷濁したらこれをすぐに附けても宜い、此藥には硫黄華が混じて居るから此藥を用ひて居る間に決して白粉殊に鉛入の白粉を用ひてはならぬ。

處方　昇汞　〇・一瓦
アラビヤゴム　五・〇瓦

リスリン　五・〇瓦
苦扁桃水　二〇・〇瓦
アルコール　二五・〇瓦
蒸餾水　一〇〇・〇瓦
右混和晝間塗布す

處方　昇汞　〇・二瓦
亜鉛華
リスリン　各一〇・〇瓦
苦扁桃水　三〇・〇瓦
蒸餾水　一五〇・〇瓦
右混和晝間塗布す

處方　硫黄華　一五・〇瓦
リスリン　一〇・〇瓦
樟腦丁幾　三〇・〇瓦
薔薇水　五〇・〇瓦
右混和用時振盪して筆にて塗る

處方　硫黄華　四・〇瓦
亜鉛華　六・〇瓦
滑石
リスリン
蒸餾水　各々一〇・〇瓦
右混和每夕塗布す

これまで述べた位の治療法なれば何人にでも容易に出來ることであるからニキビに御困りの方は先づ試みて見るのがよいと思ふ、併し少し頑固のニキビになると却々こんな處置では治らない、殊に壞疽性痤瘡、惡液性痤瘡などになると專門家でも一寸困る位に治り難いものである。故に若しこんな病氣ではないかと云ふ疑のある時は速に專門家の診察を受けて相當の養生法を行はないと、顔がきたなく成つて取り返の附かぬことに成つて了ふことがある。

（終）

人間は何故死ぬるか（三）

リープシュッツ述
莊司秋次郎譯

三、生命と死

屍は墓に運ばれる。活動なき屍は死の影像である。

茲に若し諸有る有生物質は一度は老衰に由て死なねばならぬものであるかと云ふ大問題を提出すならば、これは如何なる形を成せるものでも——單細胞の生物であらうが、植物性或は動物性の細胞團であらうが——一切の生活細胞は、その生命當然の循環に於て屍とならねばならぬものかと云ふ問題を提出するわけである。

だが先づ以て、屍とは何であるか。生活を廢めた生活物質、細胞物質、

併し「生」とは何であるか。吾人は生の何たるかを明かにせざる前には、死に就て、又屍の成立に就て論ずることは出來ぬわけである。

生活とは何ぞやの問に對して、甲乙無數の學者の說而かも通常相矛盾せる諸說を枚擧して答とした時代は過ぎて居る。吾人は今日に於ては、生活は、個の細胞の埒内に營まるゝ所の非常に複雜なる化學的過程の總量に外ならぬことを知つてゐる。この過程の中心となつて居るものは蛋白質である。蛋白質とは卵の白味によく似てゐる所から化學者がつけた名稱である。大凡そ生活なるものは、細胞の蛋白質が一定の化學的變化を起す、即ち燃燒する所に在るのである。併し此際細胞は破滅しない。と云ふものはこの細胞の小化學研究室内に於ては、活きた細胞質に改造せらるべき物質を絶えず外から攝取するからである。即ち細胞の內で不斷の新陳代謝が行はれる、精しく云へば、細胞の生活質に屬する所の物質が燃燒し、その燃燒產物、即ち細胞の物質代謝產物が排出せられ、而して生活質の燃燒した分を補ふ爲に、外から新しい物質が攝取せられるのである。總ての生活は、生活物質の此物質代謝に基くもので、總ての生活論は、細胞の物質代謝論たるに外ならぬ。生活を研究すると云ふ事は、つまり、細胞內に營まるる所の物質代謝を明かにすると云ふ事になる。運動榮養、生殖、感覺及び思考と云ふやうな苟も生活と稱せらるゝ一切の現象は、生活物質の物質代謝と總稱せらるゝ化學的作用に基くのである。生活物質

の物質代謝から、どうして生活表現が起るかと云ふ事に就ては、多くの人が考へるよりは案外に簡單である　それは次の例に依て考へれば便利である。蒸氣機關の內で物が燃やされる、さうすると、この燃やされた物質は一定の仕事をする事になる　卽ち蒸氣機關の內で物質が燃えれば、機關に働きをさせるが、この蒸氣機關の仕事の陰には、物質の燃燒と云ふ事の外に何も隱れて居るものがない。これと同樣に生活物質の生活表現の陰には、尤もこの生活表現は頗る複雜で一見した所では、とても說明が付かぬやうであるが、物質消費と物質補充、卽ち細胞の物質代謝の外には何も隱れて居るものはない。この物質代謝で以て一切の生活表現が起るので、これを以て新陳代謝作用と云ひ、生活表現と云ふ事が出來る卽ち筋肉中に營まるゝ所の物質的作用は、筋肉の運動である。吾々の腦細胞の中に營まるゝ所の物質作用が卽ち觀念であると云ふて差支がない。

一切の生活は、生活物質の物質代謝に外ならぬとすれば、細胞の死は、その內に於ける生活の消失を意味するので、つまり、細胞の物質代謝が廢せられたのである　而して屍は吾々が生活と名付る所の物質代謝が最早存在して居ない細胞の事である

然しながら、これで以て屍に就て總ての事が云ひ盡くされた譯ではない。そこで死及び屍に就て承知して置ねばならぬ他の事柄を示す所の一つの試驗に就て話さうと思ふ。

先づ水溜りの中から草履蟲を二三匹採つて見る、草履蟲と云ふのは顯微鏡でないと見えない程の小さな單細胞動物であるが、水溜の內から二三滴水を掬ひ取れば澤山である。而してこの草履蟲を含むで居る水滴を硝子板の上に滴して、それを顯微鏡で見ることの出來るやうにして置いて、それから、その水滴に「アルコール」を一寸塗つて見るのである　さうすると今迄活潑に運動し、水滴の中で非常に迅速に彼方此方に狂ひ廻つてゐたものが、既に二三分間の後には、その運動の止むのを見る、而して忽ち活動も

せずにその場に横たはつてしまふのである、卽ち草履蟲は麻痺したのである、併し死んだのではないその證據には、それに又新鮮なる空氣を觸れしむると、忽ち恢復して以前の如く活潑になる

吾々は「アルコール」を以て此の動物を中毒せしめたのである。而して此の草履蟲の中毒は、その物質代謝が妨げられ、障碍されたと云ふことに在るので、その物質代謝の障碍の外に現はれたものが卽ち細胞の麻痺である。然るにこの麻痺は、吾々の見たる通り消散せしめることが出來たのであるから、細胞の物質代謝は「アルコール」中毒に由て侵害はされた、障碍はされたが、併し全く廢絶されたのではないと豫想しなければならぬ。實際英國のヒートンといふ人が先年獨逸のフェルウォルン教授の研究室で行つた試驗で見ると、生活物質の新陳代謝は「アルコール」中毒の際には鈍くはなるが、併し全く止んで仕舞ふといふことはない、畢竟新陳代謝は只變化して普通とは異つて來るに過ぎないと云ふことが分かる。今茲に述べた所の麻醉と死との相異は、第一の場合に於ては、その障碍が再び恢復されるけれども、第二の場合にはこれが出來ぬといふ點に在る

右の觀察に依て、屍とは何ぞやと云ふことに就て判然と答へることが出來る、細胞の新陳代謝が呼び戻すことの出來ぬやうに止まつた時、卽ち修繕すべからずに消失した時は、その細胞は一個の屍となつたので、フェルウォルン氏の言へる如く、その時こそ生命の時計が止まつた……と謂ふべきである。

一寸考へた所では、顯微鏡下に見た草履蟲が活きてゐるか死んでゐるか、その細胞は屍體であるか何うかと云ふことを判斷するのは甚だ容易な事のやうに思はれる　勿論最初水滴に「アルコール」を加へ始めたさきに、草履蟲が麻醉の狀態に陷いる際には、經驗上、新鮮な空氣を以て「アルコール」を水滴の内から逐ひ出せば、細胞は再び恢復して凡て普通の生活表現を示すと云ふことを知つてゐる、然しこの實驗を餘り長く續けて、餘り長い間「アルコール」を草履

蟲に作用せしめると、新鮮の空氣を送つても最早、その痲痺から覺醒せしむることが出來なくなる、卽ち草履蟲は死んだのである、屍骸となつたのである。こゝに於て又問題が起る、卽ち何れの機會に細胞は死んだか、何時細胞は生活を廢めて屍骸となつたか、つまり生と死との境は何處にあるかと云ふ問題である。

今吾々がこの問題に答へやうとすると頗る當惑せざるを得ない、先づ一寸考へても、經驗上、生と死との判然たる境とては無いのである

これに就ても亦吾々は孤立して生活してゐる細胞で實驗を行つて、この疑問を討究するが可い　而してこれは、種々の單細胞動物に就て此の事柄を研究したフェルボルン氏の說に聽從するのが最も適當である。今一個の單細胞動物、例へば草履蟲或は「アメーバ」の如きものから、適當の手術を施して、細胞の核を含まぬ一部分を切り離して見る、さうすると殘りの核を含むでゐる細胞部分は平氣で生活を續ける。然るにその核を含まぬ部分は全くこれと趣を異にして、暫時の間に或は稍々久しくして必ず死滅するのである。併しこれが又極めて徐々に起ることもある。而してこの死の歷程、卽ち一個の細胞の核の無い部分の徐々に死ぬることに就ては、「オルビトリテス」と稱せられ、紅海のシナイ海岸に棲息し、約一「センチメートル」位まで大きくなる單細胞動物があるが、それに就てフェルボルン氏の報告する所を述べようと思ふ　この「オルビトリテス」は、その石灰殼の氣孔から、核のない「プロトプラスマ」の絲、所謂虛足を突出し、これで以て動いたり餌を捕つたりして居る。今この核の無い「プロトプラスマ」の絲を「オルビトリテス」から切取るといふと、それが先づ以て一つの球の樣に圓ばるが、やがて此の「プロトプラスマ」の球から虛足を突出して、恰もこの「プロトプラスマ」の球が全く一個の「オルビトリテス」であるかの觀がある、しかのみならずこの虛足を以て食物を捕るのである　然るにこの新に製造さ

れたーオルビトリテスーは少しもその食物を消化することが出來ない。これには細胞の正規の新陳代謝に備はつて居るべきものが缺けてゐる、即ち核が缺けて居るのである。それでも、この「プロトプラスマ」球は尚ほ能く一時間以上も運動することが出來る、然し漸次死に近くことを免れない。「プロトプラスマ」球が延ばした所のその虚足は凝結ばつて來て崩解れ、遂にその「プロトプラスマ」全體が極小さな運動の無い小塊と顆粒の堆積物に崩解れて仕舞ふ。彼は死んだのである……フェルボルンは得意の詩的彩筆を振つて、この草履蟲の切取られた無核の一片に於ける生活物質の徐々たる死を次の如く敍して居る。

「この無核の分塊は……當初は全く普通の有様である。その顫毛は恰もこの體部が猶ほ爾餘の細胞體と無難の關係に立ちし時の如くに働いてゐる。漸次顫毛の搏擊は緩慢となり、各個の顫毛は不整に搏ち始める。その各搏擊の間には間歇が起り……尋で「プロトプラスマ」は一部分に於て頽潰し始め……一種細胞顆粒性の塊[illegible]一部に分解す。この[illegible]は漸々に進行し顫毛は順次に侵され、永く靜止するに至らしめる。この興趣深き場合に方つて、死が如何に細胞の上に辿りつくかを目のあたり顯微鏡下に窺ふことが出來る。一部より一部と攫みゆき、その小止なき運動より出て永久の休息に强ふるのである。この過程は終日に亙ることがある。然し他の場合には、只潰崩したる物塊を後に殘して、火索の上の火花の如く急性に經過し去つて少時の間に細胞の上を馳せ通るのである」。

凡て此等の實驗に於て重要なることは、吾人の眼前に於て死が極めて徐々に生より發起することである。屍は一擊の下に生せずして、細胞の生活物質中に、細胞の新陳代謝に於て行はるゝ所の變化の長き連鎖の經過に於て成つたのである、これ新陳代謝は人工的の侵襲(核より「プロトプラス」の分割)に依て防げられ、別途に轉向されたが爲である。吾人は、生と死との間には判然する境界なきことを見る。「死は

生より發生す」(フェルボルン)

(以下次號)

育兒

適切なる小兒便祕の手當

醫學士　竹内薫兵

竹内學士には度々本欄に執筆して被下るやう御願ひ致し御快諾も得て居りましたが、御多忙の爲め遂ひ若て頂くことが出來ず甚だ遺憾に存じて居りました所、此度中央報德會から『子供の育て方』(金五拾錢)と云ふ本を御出しになりました。これは育兒法に關するあらゆる事を極平易に而かも懇切に實際に直ぐ應用の出來るやうに說かれて居りまして、我國には珍らしい良い本であると信じます、安心して會員の方々にお勸めが出來ると存じます。今玆にその内の一節を拔粹して御紹介致します。

(編輯者)

子供はよく便祕を起こすものである、凡そ生れてから三箇月經つ頃までは、大便は一日三四五囘あるのが通常である。然し日本の普通の子供は一晝夜に十囘も十五囘もいたしますが、これは實は病的で、大抵はあまり親の乳を飲ませ過ぎからである。我國の俚諺に『百日間は泣く子たれつ子』と申しまして、生後百日まではのべつに泣き、又よく大便をするものである樣に思ふのは間違ひである　眞に適當に乳を飲ましてさへ居れば、今申しました樣に一晝夜で四五囘よりも多い事はない。それから生後四五箇月以後になれば、一晝夜二三囘なるべきである。もつと後になれば一日一度が普通である。

然るに子供によると、生れて二三箇月の子供でも二日三日も便通のない事がある。又二歲三歲或はそれ以後になつても、一箇月も二箇月も便通のない病氣もある。而して二日三日目に出る大便は、乳兒ならば、矢張り軟かで粥のやうであるが、少し大きくなつて丸一年も經た後の子供のものは、硬くなつてこ

ろ〳〵したやうになる。四五歳頃になると便秘してから出る大便は硬くなる上に、出る時非常に痛むから、子供は其都度泣き叫ぶので、親は可哀相でたまらなくなるのである。要するに乳兒の間なれば一日に一度も大便をしないのは便秘と名をつけてよいが、少し大きくなつてからは、二日以上も大便が出ないのでなければさうはいひません。從つて便秘でないのに騒いで治療するにも及びませぬ。

子供の飲み物

便秘の中にも、母乳を飲んでる子供のと、牛乳や外の物を飲んでる子供のと、それから大きくなつて御飯や野菜などをも食べてる子供の便秘では、それぞれに治療の仕方が違ふ。何でも便秘でさへあれば、下劑といつて通じ藥を飲ますとか灌腸をするといふことは、大人には兎に角子供にはよくない事で、又そんな事で到底治るものでない。尤も一度だけ通じを取らうと思ふ時は通じ藥か又灌腸がよい。通じ藥では子供には「ヒマシ」油といふ油藥が一番よく利く。大人は飲み惡がつて無理に飲むと嘔吐す人も少なくないが、子供は却てよく飲むものである。生れて一二箇月の子供ならば、咖啡を飲む匙、又は茶呑茶碗の絲底位の深さの物へ二杯飲ませればよい。分量でいへば一度に六瓦か八瓦。飲ます時は砂糖水の上へ浮かして與へるが一番樂である。

藥と灌腸と座藥

「ヒマシ」油の外には子供に通じ藥として飲ませるには、甘汞だの、大黄舍利別、「マンナ」舍利別、小兒散、旃那舍利別、「プルゲン」などがありますが、これは用ゐない方が安全である。甘汞は醫者以外の人が用ゐると、却て害を起す事があるから、禁じた方がよい。それよりも素人に危險のないのは灌腸であります。

灌腸といふのは又注腸といつてもよい。子供に普通用ゐる灌腸は「リスリン」灌腸といふので、「リスリン」と水と同量に混ぜたものを水鐵砲のやうな灌腸器といふものに吸はせて肛門から腸の中へつぎ

込むのである。此時灌腸器の尖端へ「ワゼリン」を塗つて入れるがよろしい。子供用の灌腸器といへば、器械屋又は賣藥店で賣つてますから、一度にそれへ生れたての子供なら半分、六七箇月經たら八分目、一年經てば一ぱい入れてよい。しかしこれで未だ通じのない時は、もう一度やつてもよろしい。

然し一寸、二日三日通じのない時は、素人に殊に便利なのは「リスリン」座藥といふものを用ゐる事です。それも小兒用「リスリン」座藥と名付て藥店で賣つてゐます。銀紙に包んだ大砲の彈丸のやうな形をしたもので、これを用ゐる時は銀紙を剝がして、肛門へ一個挿し込んでやるのです。五分間以内に通じがあります。「リスリン」の灌腸でも五分間經たない中にあるが、藥を飲んだのでは、四五時間經たないと通じはない。又利きのよいのは「ヒマシ」油が一等で、次は灌腸です、座藥は一番利きが惡るい

私の勸める方法

隨分子供でも一箇月も二箇月も便通のない子がある。腸は太鼓のやうに張つて、それで元氣に少しも變りなく、便は少しも出ないといふので、これは病氣であつて、ヒルシユスプルング氏病といふのです。これは醫者に治療を任かすより外に仕方がない。

然し其外の便秘は、醫者の藥や治療と共に、親の手當が非常に大切である、否、親の手當でだけでも治る事が少くなないのである。其の方法は、私が常に勸めて居る。平素の食物又は飲物で治す方法である

先づ親の乳ばかり飲んでるのに、便秘して困る子供がある。これは親の乳が惡るいのではないから、急いで親の乳を廢したりする事は決して仕てはならぬ。之れを治さうと思はゞ果物の汁を飲ますが一番よい。每日午前に一度、午後に一度飲ます。蜜柑の汁もよいが酸つぱいために吐きだすことがありますから、私は林檎の汁か梨の汁の方を便利と思ひます。汁を取るには皮を剝いで大根下ろしで下ろし、

それを淸潔な「ガーゼ」か、又は普通の木綿の布片で漉すのである。隨分澤山取れるものです。一個の梨でも林檎でも密柑でも、半分午前中に使ひ、午後に半分使ふ事とする。其汁を盃で飮ますと子供は喜んで飮むものです、これで少し位の便秘は大抵治ります。これまで三日四日目で、それも灌腸しなければ出ないといふ子供が此僅かな面倒で恐く全快した例は、私は澤山實驗いたしました。又「マルッエキス」や水飴を溶かして飮んでも通じのつく事があります。

人參

牛乳で育ててある子供は多く便秘しがちである。たとひ每日通じはあつても、澤山あつて硬くて泣いて困る事が多い、動もすると血が出たりします、これを治すには牛乳を廢して人間の乳にするのが一番よろしい、卽ち乳母を雇ふか貰ひ乳をするかである。又母の乳を飮む事が出來ればこれに越したことはない。然しそれも出來なければ、其牛乳の中へ人參を磨つて入れて飮ますより外に良法はない。普通の人參を茹でゝ(又生でもよい)五寸か六寸位のを大根下ろしで下ろして、それを牛乳一合の中へ入れてかきまはして飮ますのである。一日二度でも一度でもよろしい。便通があるなしで加減するがよい。又此外林檎の汁や密柑の汁や「マルッエキス」や水飴も試むべきであるが、人參の方がよく利くやうである。

大きい子供

乳兒でなく、もつと大きくなつた子で、御飯でも味噌汁でも食べるやうになつてからは、便秘は割合に少い、然しない事はない。之を直さうと思へば先づ醫者の診察を受けるのは勿論であるが、一ッには食物を變へるがよい。やれあれは不消化だ、これは衞生上惡るいと注意し過ぎるやうな事をしないで、果物を食ふべし、香の物も噛るべし、牛肉も與ふべしといふ具合に行つた方が却て好結果を奏するものである。それから努めて外出させ、外で子供同志遊ば

すといふやうな事は、かういふ子供の便祕には大に效果がある。

要するに子供が便祕で困るならば、一應醫師の診察を受けて其指圖に從ふは勿論であるが、其外、むやみに藥々といふ考を起こさないで、食物や飲物に注意して、之を變へたゞけで、十分治る事のあることを御承知ありたいのです。

赤坊の湯浴させ方

赤坊にお湯をつかはせるのは何でもない樣なものゝさて慣れぬと具合の惡いものであります。然し數回注意して練習すれば漸次上手になります。盥、「タオル」、湯の加減宜しく、これは申すまでも無からうと思ひますが、只少しく申し上げて置くことは湯をつかはせる時刻です。これは稍ゝ生長した小兒とは少しく趣を異にして朝が一番適當で、乳を與へる前或は睡眠の前に行ふべきもので、乳を飮むだ直ぐ後は禁物です。それから赤坊の眼は每日お湯の時に硼酸水でよく洗てやります口も同樣に硼酸水或は重曹水で拭いてやります。耳は餘程注意致しませんとお湯を入れますから氣をつけなければなりません、兎に角耳は拭いた後で必ず乾燥いた脫脂綿で又輕く拭いて耳の中の濕氣を取らなければなりません。頭部は每日お湯をつかはせる前に洗つた方が宜しい、而して若し黃色或は褐色の痂皮のやうなものが頭部の皮膚に認められましたならば早速「ワゼリン」又は「オレーフ」油を寢る前に其部分に塗つて置きまして、翌朝入浴の後に、軟かい「ブラッシ」で拭い落すやうに致します。尙ほ赤坊の頭部を洗ふに用ふる石鹼は、なるべく香などの高くないものを選ばなければなりません。

家庭衛生

「コレラ」と酸

「コレラ」菌は酸類に對して非常に弱い、此れは事實であります。それで「コレラ」流行時に適當に酸類が胃の内に在れば、縱令過つて少數の「コレラ」菌が口から侵入しても、その酸の爲に「コレラ」菌が殺されやうと云ふのは正當の考であります。然し人間の胃は、食物が這入つて來れば自然に鹽酸を分泌するものでありますから、これで以て「コレラ」菌は殺されて仕舞ふ筈であります。然るに「コレラ」病に罹る人のあるのは如何なるわけかと申しますと、つまり鹽酸が充分「コレラ」菌に作用することが出來なかつたものと思はなければなりません。それは何う云ふ場合かと申しますと、胃が害されて居つて鹽酸の分泌が不充分な場合。食物が多量な爲に或は食物の咀嚼が不充分な爲に、鹽酸がよく「コレラ」菌に作用する迄に浸み亙らなかつた場合。又は食後に多量の湯茶の如きものを飲んで胃液が薄められた場合。氷水を飲むとか其他の事に由て食物が胃の内で充分胃液の作用を受けぬ中に腸に送り出さるゝ場合。斯ういふやうな場合には「コレラ」菌は胃の内で殺される事を免れて目的の腸に達し、此處で以て誰憚らず非常の勢で以て繁殖し、盛に毒を製造する。この毒が身體に廻ればそこで所謂「コレラ」病が發するのであります。

斯様なわけでありますから、食後に適量の稀鹽酸水或は「リモナーデ」を飲み、又は梅乾を食るのは確かに宜い考であります、先づ「コレラ」豫防になると申して差支ない。然るに斯う申すと、醫者心の無い人は始末のわるいもので、むやみに稀鹽酸を多く入れたり「リモナーデ」を飲むだり、餘り度々飲むだりして、却て胃を害して危險を多く致します。これは

實際私の見て居る所ですから御注意申上げて置きます。

それで「コレラ」に罹らぬ用心としては、胃腸を健全に保つと云ふ事が一番大事なことであります。それから一度に多量の食物を取らず、又一度に多量の飲料を取らざる事。不消化物を忌むべき事。此の如き極普通の日常の攝生法が最も大切な豫防法の條件でありまして、稀鹽酸水とか梅干とか云ふものは只これを適當に用ゐる時にのみ有效な副豫防法となるので、濫用するに於ては凡て此の如き人工的の仕事は却て仇となるのであります。目下大騒をしてゐる「コレラ」の豫防注射とても同理で、これを注射すれば豫防が出來るわけであると云ふ理想で行はれるのですが、實際よく之に依て豫防が出來たと思はれる場合も多いが、餘り效が無かつたと思はれる場合も少なくない。何分この豫防注射が試みられてから日尚ほ淺く、西洋でも經驗が未だ十分積まれて居りませず、我國では今回が初めて位の事でありますから豫防注射をすれば決して「コレラ」に罹ることは無いと斷言することは出來ません。一回注射したからとて氣をゆるして不養生をすれば又罹り得るであらうと思はれます。併し完全ならざる迄も幾分の效は確かにあるに相違ありません。縱令ば「コレラ」に罹つても輕症ですむと云ふ具合に效があるものと信じます。それで非常に用心をなさる方は豫防注射をなさるが宜しからうと思ひます。但し注射をしたからと云ふて一方で不攝生を始めることになれば、何ちらが良いかわからぬ、寧ろ豫防注射をせぬ方が安全かも知れませぬ。

「アルコール」を含まぬ酒

御承知の通り獨逸人は一般に麥酒を飲む習慣があり、殊に軍人は盛に酒を飲みます。所で今度の大戰爭が案外に長引くので、戰地に於て飲料が拂底して來た所から、大學教授のチーマンと云ふ人が工夫を

凝らして一種林檎酒に似た、而かも甚だ廉價で、炭酸を含み「アルコール」の無い飲料を製造したと云ふことであります。これは寧ろ夏向の飲料でありますが、製法が如何にも面白いから玆に御紹介致します。

一、五十瓦の「トチリコ」の皮を二升の水に投じて一回煮沸し、密閉したる器中に二時間放置し、それより樽に注ぐ。

二、此の樽には凡そ五合の溫湯に百瓦の酒石酸を溶したものを加ふ。

三、別に百瓦の「キクヂシヤ」を五合の冷水にて二時間浸出し、此の浸出液を又此の樽の中に混す。

四、麵包釀母八十瓦を凡そ四合の冷水に加へて攪拌して溶解せしむ。但しこの釀母は新鮮なるを可とす。これをも樽の中に加ふ。

五、五瓦の結晶砂糖を溫湯にて溶かしたるものを更に樽に投す。

斯様にして、水を混じて全部で五斗とし、これを穴藏の中に収めて醗酵させるのであります。その期間は溫度次第で十二日乃至十八日間で、栓は勿論寛くして置かなければならぬ。

さてこれを穴藏から出して「コップ」へ注いで見ますと、味の爽快な稍々苦味を帯びた結構な飲料で、價は一杯僅かに五厘乃至一錢にしかつかぬといふことであります。

抄録

隔離所の生活（萬朝報）

虎疫が益々猖獗なので隔離される者も愈々多くなる、隔離と云へば恐がるのも随分あるが、夫れは内容を知らぬからの事である、試に本所病院内隔離所の状態を記して見ると、隔離者は最初馬車で裏門の患者通用門から送り込まれて、直ちに貴重品を預け、衣類を脱いで醫師の診断を受けた上三和土の

清潔な湯殿に導かれる、消毒衣を着けた看護婦に頭を洗つて貰つて、白い色の大きな薬湯に浴してから、側の清潔な湯で薬の氣を落とし、これで美麗になると白い消毒衣を給せられ、一家族一室宛てゝ八疊程の部屋に收容させる、家族が無ければ只一人でも一室を與へられて夜具は三布蒲團一、四布の掛け蒲團一、どれも快い雪白のもの、蚊帳は八疊一杯のまだ新らしい香のする麻製である、寢るも起きるも制限なく自分の勝手であるが、只顏を洗ひに行く外は部屋を一歩も出る事が出來ない、洗面所では、先づ手を消毒液で洗つてから顏を洗ふ。朝飯は大丼に温かい飯を山盛にしたのと瀬戸引コップ一杯の味噌汁晝は同じ飯丼と瀬戸引皿に盛つた（魚肉鯉や鯖の切身）又は牛豚肉、夕飯には野菜と定まり、香の物は必ず澤庵、これは勿論三度とも附く、運動しない割合に甘く食べられると云ふ、隣室との交際談話は禁じられるが、聲を立てる事は他人の妨害にならぬ限りは大目に見るから、念佛、讃美歌を唱へる者もあれば軍歌、義太夫、浪花節、都々逸などの連中もある、看護婦は何れも鼻箝を掛け、絶えず掃除をしてゐる、各室には人數だけの便器があつてそれを一々午前と午後二回に看護婦が取て廻る、大便は毎日試驗管に入れられて檢査される、そして午前と午後との二回、看護婦が各收容者の脈搏體温を調べる、醫師は午後に一回、各室を廻る素通りするのだが怪しいと認めると診察する、看護婦も收容者も面會や手紙の投函やは殆ど許されない、特に看護婦は買物も出來ない、さて收容者は七日間同じ樣な日を暮らして、愈々健康上不審の點がないと退院を許される、此時に、健康者は正門から出る死者は裏門から、患者は患者通用門から出るのである、去る二日に入院して八日に出て來た某氏の談によると氣味の惡い事もなし、恐ろしい感じもなく寧ろ新しい經驗をして面白かつたそうである。

豆腐の鑑定法（婦女新聞第八五二號）

豆腐の滋養分は牛乳に匹敵する位ですが、腐敗する時間も牛乳と略同じであります。其故黴菌學者は黴菌の試驗をするに、牛乳の代りに豆腐を用ひる位です。此頃は悪疫の關係上豆腐が盛に食膳に上りますが、前述の次第ですから、豆腐の良否を知らないと後で悔いても及ばない事があります暑中は前日拵へた物は用ひられません、又其日のでも腐敗の虞がありますから、買ふ時注意が肝要であります、要點を示せば、第一鼻で嗅いで見ると風味が好く、肌がキッパリして居るのは先づ安全です。殊に青白い光澤があれば申分がありません。又惡いのは表面がヌルヌルして端を摘まんで見ると絲を引きます。

防腐法としては、氷にでも冷して置けば多少の時間は保てますが不經濟です。さりとて冷水に浸して置いた位では大した效はありません。若干時間後料理に用ひようとするには茹で、置けば宜しいです。併し白湯ばかりで茹でると、豆腐中の蛋白質が凝固つて硬くなり盤

が立ちますから、煮てる時には葛を少し許り皿に溶いて湯の中に混ぜますと、豆腐は硬くもならず泡も立ちません。



雜報

○佛國派遣救護班歸る

日本赤十字社の佛國派遣救護班一行は十七ヶ月の戰時勤務を終へ、去る十三日無事神戸に歸著し、十四日桃山御陵參拜、十五日午後零時十分東京驛著、赤十字社看護婦、日本醫專生徒、花房赤十字社長其他五百餘名の出迎を受け、直ちに芝の本社に引上げたるが、十六日正式の解散式を行へり。

○彼岸の贈答廢止

神田衞生會にては惡疫豫防の一策として彼岸に食物の贈答する風習を一般に廢するやう警視總監に宛て建言書を提出したる由なるが、警視廳にては此事は時節柄眞に意を得たるものなれども、警察の力を借りて廢止せねばならぬ程の國民の衞生思想にては、廳令を發しても實行六ヶしかるべく、之に就ては目下詮議中なるが、芝區衞生組合の如きは廢止の旨を印刷に附して要所要所に貼出し居れり、此等は最も當を得たるものにて、各區衞生會にても斯やうの點より各自愼しむやうにありたしと言ひ居れりと。

○產婆試驗

東京府に於ては來る十月十六日より產婆試驗を執行の筈なるが受驗者は其前日迄に受驗番號票を、實地受驗者は受驗證を差出すべしと。

○看護婦救濟慰安法

大日本看護婦協會に於ては今回新に看護婦救濟慰安の方法を講ずることゝせり。即ち組合會は毎月金五十錢宛を醵出し、其内より救濟基金を積立て其他の寄附を之に加へて利殖を圖り、救濟法を左の四種

に分つて行ふものとせり。

▲甲種傳染病者　は發病後二ヶ月を限り一日金五十錢を支給す

▲乙種普通病者　は一ヶ月以上二ヶ月を限り初月には五圓二ヶ月目は三圓を給す但在會二年以上の者に限る

▲老病者及び廢疾者　には一ヶ月五圓を四ヶ月以内支給す老廢者は滿十年廢疾者は滿三年同一會に所屬したるもの

▲丁種死亡者　には現在看護婦にして死亡せる時金拾圓の弔慰金を贈る

○富坂署の飲食店取締り

コレラ病流行の折柄、小石川富坂署にては嚴重に飲食店を取締る方針にて、去る十三日より十四日までに飲食品に覆蓋をせざる者百七十二軒を處罰せり、此等は主として芋屋、團子屋、天麩羅屋等などなるが、一署の管内に於て僅か二日間にこれだけの違反者ありとすれば、市内全體に勵行さるゝに於ては驚くべき多數に上ることなるべし。

○女子防疫吏

コレラ病防遏の目的を以て豫てより大阪府衛生課にては安治川木津川築港等に碇泊せる諸船舶の乘組員の檢便を實行しつゝあるも益々嚴戒を要する一方防疫委員に不足を感ずる折柄今般新たに看護婦七名を判任官待遇の防疫吏に採用せり。

廣告

○訂正

前號に報告せる入會者特別會員岩島須美子とあるは岩崎須美子の誤につき訂正す

○轉居

宮城より麻布區笄町一〇三へ　湯村きく子

千葉より芝區高輪南町十七へ　弘世みつ子

新潟より青森縣弘前市親方町菊地九郎方へ　小山榮枝子

芝區より府下隱田七六八へ　宮崎爲子

私立大日本婦人衞生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子　同 長谷川仲子
同 岡田徳子　同 高木鐐子
同 山本多穂子　同 三浦敎子
同 松平芳子
評議員 入澤常子　同 羽田三緒子
同 濱田捨子　同 服部繁子
同 仁禮壽賀子　同 西外子
同 土肥多越子　同 緒方悦子
同 岡山とし子　同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子　同 片山龜子
同 吉岡彌生子　同 丹波貞子
同 高橋孝子　同 田村きよ子
同 武田貫子　同 鶴原誠子
同 男爵夫人 南部隈子　同 中濱芳子
同 山口貞子　同 子爵夫人 松井正子
同 古市幸子　同 小松いさ子
同 近藤憲子　同 伯爵夫人 阿部篤子
同 天野多喜子　同 岸澄子
同 菊池峯子　同 三宅藤子
同 宮本樂子　同 宮下咲子
同 守屋千代子

婦人衞生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵税壹錢
三冊（三ヶ月分） 前金郵税共 金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分） 前金郵税共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾四圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正五年九月十七日印刷
大正五年九月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 櫻井新三郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衞生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

東京帝國大學醫科大學教授
醫學博士高橋順太郎先生檢定

新刊說明書進呈す

強心新藥 パンギタール
PANGITAL
チギタリス劑

溶液 15cc	¥ .95
一回注射量入溶液	
6管	¥ .60
12管	1.10
內服專用粉末	
15瓦	¥ .95

パンギタールは濟生會病院副院長醫學博士伊丹繁先生並に同病院內科醫長醫學士久野義麿先生等の臨床實驗に由り**其強心作用從來の外國製劑に勝る事を證明せられたり。本品の特色**とする處は左の如し

一、強心作用に伴ひ利尿作用も亦顯著なること
二、有害なる副作用並に蓄積作用なきこと
三、內服するも胃腸を害することなく皮下に注射するも患者は疼痛を感ぜざること
四、作用迅速にして効力確實なること

此等の特長あるが故にパンギタールは心臟瓣膜病、心力不全、其他心臟諸疾患、腎臟炎、脚氣等チギタリス療法の必要ある各種の場合に適用して著効あり

用量＝內服は一日一・五―三・〇瓦（溶液並に粉末とも）　注射は一回〇・五―一・〇立方仙迷

製造元　東京室町　**三共株式會社**